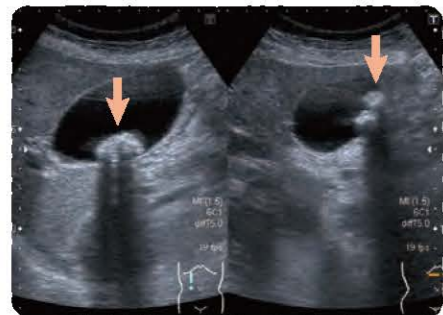


どんなこと?

超音波検査 (エコー検査)

体の表面から人の耳には聞こえない超音波を当て、体内の組織にぶつかってはね返ってきたエコーを画像に映し出す検査で、エコー検査とも呼びます。超音波を発する探触子(プローブ)を当てて検査しますが、痛みはほとんどありません。放射線を使用していないため、繰り返し行うことができる検査です。肝臓、胆のう、膵臓、腎臓などの腹部臓器、心臓、血管など血流状態や、乳腺、甲状腺など表在臓器を調べることができます。



腹部エコー検査 胆石
体位変換で移動します。



心エコー検査
壁運動がリアルタイムでわかります。



下肢動脈エコー検査
血流信号を画像にします。

超音波(エコー)検査はモニターを見ながら行います。そのため、部屋を暗くして検査します。不安な場合は、遠慮なくお申し出ください。

腹部エコー検査時に、検査前禁食にしています。食事をとってしまうと、胆のうが収縮して胆石や胆のうポリープを観察できません。気を付けてください。

膀胱、子宮を検査する場合は、尿をためて行いますので、指示に従ってください。

検査時に病歴や疼痛部位を聞く場合があります。聞いたことを参考にして目的部位を検査していきますので、正確に教えてください。

- ① 腹部エコー検査は前処置として禁食です。
- ② 検査部位にゼリーをぬって検査します。
- ③ 検査中にモニターを見ながら、会話することが可能です。
- ④ 検査部位が出やすい服装で来院してください。
- ⑤ 検査部位で検査時間が異なります。

もっと詳しく!

I 腹部エコー検査

おなかから超音波を当て、おなかの中の臓器などの様子を見る検査です。ベッドに寝ていただき、おなかにゼリーをぬって検査します。主に肝臓、胆嚢、膵臓、腎臓、脾臓、膀胱、前立腺、子宮などを見ることができます。脂肪肝や肝炎、肝硬変胆石、腎結石、前立腺肥大、子宮筋腫、大動脈瘤などの病気がわかります。

II 心エコー検査

胸から超音波を当て、心臓の様子を見る検査です。ベッドに寝ていただき、胸にゼリーをぬって検査します。心臓の大きさ、動き、弁の状態などを観察します。心筋梗塞や心臓肥大、弁膜症、先天性心疾患などがわかります。

III 頸動脈エコー検査

首から超音波を当て、首の左右にある頸動脈の様子を見る検査です。頸動脈は脳に血液を送る重要な動脈です。動脈硬化の評価や脳梗塞の原因となる血栓の存在などがわかります。高脂血症、糖尿病、高血圧などの方たちに有益な検査です。

IV 下肢動脈、下肢静脈エコー検査

足の付け根から足全体にかけて超音波を当て、走行する動脈と静脈の血液の流れや血管の状態を検査します。下肢動脈検査では動脈硬化や動脈瘤、血栓などがわかります。下肢静脈検査では血栓や静脈瘤、静脈弁機能不全の評価などがわかります。

V 乳腺、甲状腺エコー検査

それぞれ胸や首から超音波を当て、組織の構造を見る検査です。乳腺エコー検査では乳腺症やがんなどがわかりかかります。甲状腺エコー検査では甲状腺が大きくなっていないか、がんなどがわかりかかります。

VI 婦人科エコー検査

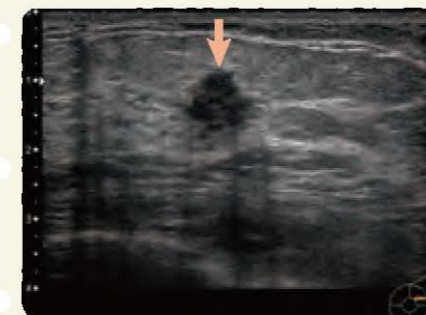
経腹(けいふく)法と、指の太さほどのプローブを直接陰内に入れて行う経陰(けいちつ)法があります。経腹法は、排尿をがまんして膀胱に尿をためて、その後ろにある子宮を観察します。子宮や卵巣の位置、大きさ、子宮筋腫や子宮内膜の異常、卵巣腫瘍の有無やその種類、妊娠の有無、子宮周囲にたまった腹水や血液の有無、排卵の予想、妊娠中は、胎児の様子などを観察できます。

VII 関節エコー検査

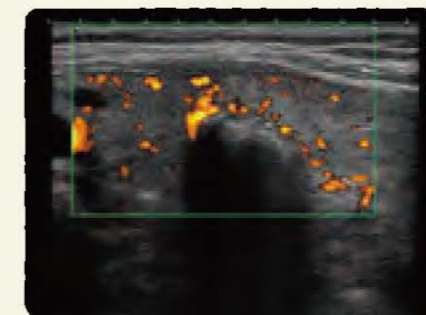
関節リウマチがひきおこす滑膜の炎症を直接観察する検査です。炎症を起こしている関節滑膜の厚みをもち関節液が増加した状態を、内部に異常な血流信号として観察します。早期の関節リウマチ診断や関節の炎症が抑えられていることなどがわかります。

VIII 表在エコー検査

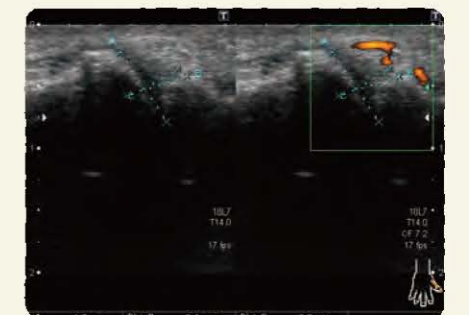
皮膚表面に近い部分にできた腫瘤に超音波を当て、その形と存在部位を観察します。脂肪組織などでできたものか、リンパ節組織なのかがわかります。形状から、悪性であるか、良性であるかを判別します。



乳腺エコー検査
不規則な形の部分が乳がんです。



甲状腺エコー検査
オレンジ色の部分が血流の多い所です。パセドウ病です。



指関節エコー検査
オレンジ色の部分が炎症の強い所です。